

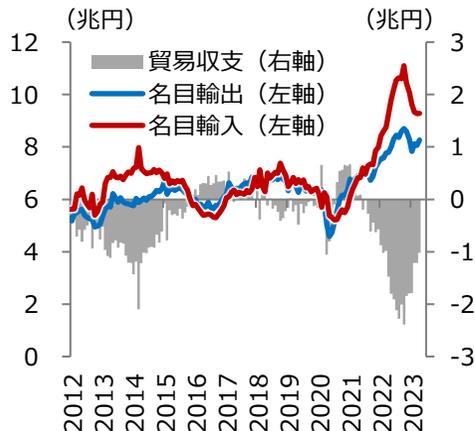
日本

貿易統計 (2023年4月)

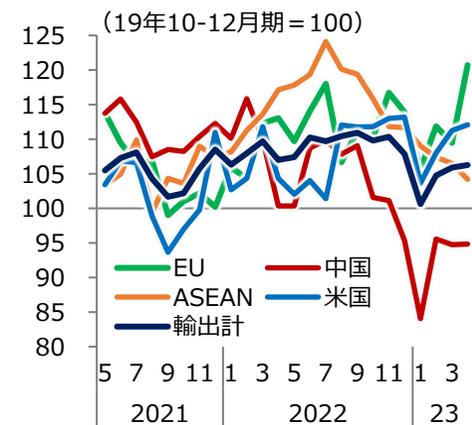
## 中国・ASEAN向け輸出の弱さが目立つが、持ち直しの兆しも

政策・経済センター  
堂本健太  
03-6858-2717

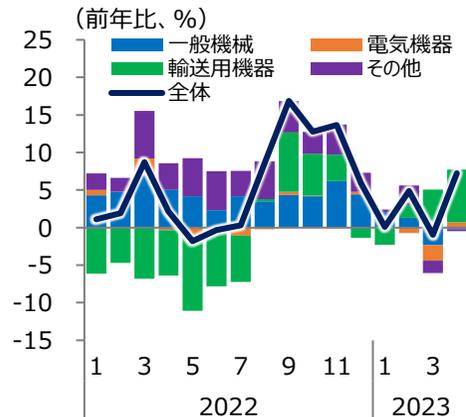
## 1 名目輸出入・貿易収支

注：季節調整値。  
出所：財務省「貿易統計」より三菱総合研究所作成

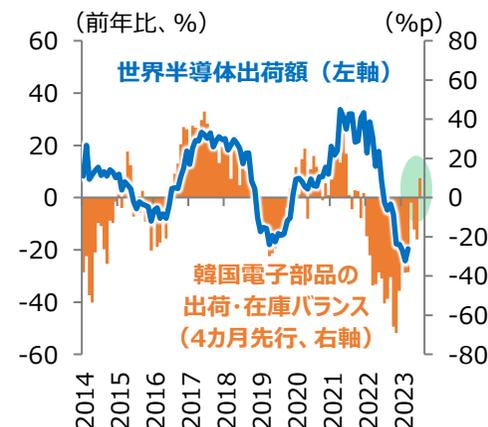
## 2 実質輸出 (主要地域)

注：当社による実質・季節調整値。  
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

## 3 米欧向け実質輸出 (品目別)

注：当社による実質値。欧州向けはEU加盟27カ国が対象。  
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

## 4 半導体需要関連指標

注：直近値は、3月。出荷・在庫バランスは、出荷前年比－在庫前年比。  
出所：WSTS (世界半導体市場統計)、韓国統計局より三菱総合研究所作成

## 評価ポイント

## 今回の結果

- 4月の貿易収支 (季調値) は、▲1兆172億円と21か月連続の赤字となった (図表1)。ただし、名目輸入の減少傾向に加え、名目輸出の持ち直しもあり、貿易赤字幅は22年10月をピークに縮小が続いている。
- 価格・為替変動の影響を除いた実質輸出 (当社試算、季調値) は、4月前月比+0.4%と3か月連続で増加した (図表2)。米国向け・EU向けが23年初の落ち込みから持ち直した一方、中国向けは緩やかな回復にとどまり、ASEAN向けは減少傾向が続いている。

## 基調判断と今後の流れ

- 貿易赤字は、既往の原油価格下落を受け、縮小傾向にある。もともと、対円為替レート、原油価格とも足元では一進一退で推移しており、当面は1兆円程度の貿易赤字が続くだろう。
- 実質輸出は、一時下振れたものの底堅い。先行きは、海外中央銀行の金融引き締めの影響から米欧経済が減速し、輸出を下押しするものの、底堅さを維持すると見込む。
- 輸出の下支え要因として、自動車生産の回復が挙げられる。米欧向け実質輸出を品目別にみると、金融引き締めの影響から設備投資と関連のある一般機械輸出が弱含んでいる一方、輸送用機器は持ち直している (図表3)。車載半導体等の供給制約が緩和したこともあり、受注残への対応、在庫の復元に向けた需要は米欧向け輸出を下支えするだろう。
- 悪化が続いていた半導体市況にも底打ちの兆しがみられ、先行きは中国向け・ASEAN向け輸出の持ち直しが期待される。世界半導体出荷額に先行して変動する韓国の電子部品の出荷・在庫バランスは直近でプラスに転じており、在庫調整の進展がうかがえる (図表4)。中国のゼロコロナ政策解除後の需要回復もあり、半導体出荷額は23年後半にも前年比プラスに転じる可能性がある。それは、日本の半導体部品や製造装置輸出の増加につながるだろう。